

平成25年11月27日

ープロジェクト研究センター紹介ー

日本鶏資源開発プロジェクト研究センター

～生物機能解明、食料安全保障、日本文化継承に貢献するオンリーワン～

[研究機能]

1. 日本鶏資源開発プロジェクト研究センターについて

(1) センターについて

日本鶏資源開発プロジェクト研究センターは、日本鶏(にほんけい)の保護・増殖・保存を図りつつ、それらが持つ豊富な遺伝資源を基礎から応用(実用)に渡って有効活用することを目的に、本学大学院生物圏科学研究科陸域動物生産学講座の教員を主なメンバーとして、平成22年4月1日に設立されました。日本鶏をはじめとする家禽の飼育施設は、同研究科の精密実験圃場内ならびに西条ステーション(農場)内に存在しています。

日本鶏がもつ遺伝資源の活用を図る研究組織は、国内外を見渡してもオンリーワンの存在であるといえます。

(2) センターの体制・主な活動

本センターは、センター長および副センター長のもと、「多様性解析部門」「希少種増殖部門」「遺伝資源保存部門」「有用遺伝子解析部門」および「生体機能解析部門」の5部門を備え、それぞれに部門長を配しています。また、特別顧問を置くとともに、学内外に多くの協力研究員もいます。さらには、飼育施設の日常の衛生管理および防疫のために管理・衛生班も備えています。

この体制のもと、1) 研究・調査、2) 保護・増殖、3) 展示・教育、4) シンポジウム開催、5) 出版・広報、6) 功労者表彰、7) 国際協力、8) 分与の8つの活動を行っています。

(3) センターで保有する鶏の品種数

現在、本センターでは、日本鶏35品種(うち天然記念物24品種)ならびに外国鶏13品種の合計48品種(内種、系統まで含めると約120種類;総羽数約2,200)のニワトリを保有するとともに、ウズラ類(ウズラ、ヒメウズラ、コリンウズラ、カンムリウズラ)についても、突然変異系統を中心に24系統(総羽数約1,500)を保有し、その研究、保護増殖、展示ならびに分与等を行っています。この保有数は他に類例をみないものであり、本センターの大きな特色です。

2. 日本鶏資源開発プロジェクト研究センターの取り組み

日本鶏とは、文字通り、日本で作られたニワトリのことです。現在、約45の日本鶏品種が存在しますが、この数は全世界のニワトリ品種数の約10~20%

に相当します。この小さな島国でこれほど多くのニワトリ品種が作られたという事は”驚異”といえます。ところが、この事実はあまり世間に知られておらず、研究者の注目も集めてきませんでした。それは、日本鶏品種のほとんどが、卵や肉の採取を目的とした産業鶏ではなく、観賞用の品種であるからだといえます。しかし、観賞用であるということは、その姿かたちや性質が多種多様であるということの意味します。そして、それは同時に、その姿かたちや性質を支配している多種多様な突然変異遺伝子を日本鶏が持っているということです。本センターでは、生物機能解明および食料安全保障に向けて、この多種多様な突然変異遺伝子を持つ日本鶏の有効利用(資源開発)を行っています。また、日本文化継承のため、日本鶏品種の保護・増殖・保存に取り組んでいます。

## ○センターの取り組みの有用性・期待される効果

### 〈生物機能解明〉

日本鶏の有効利用の1つとして、日本鶏の「生物機能モデル」としての使用が挙げられます。生物機能モデルとは、「突然変異個体と正常個体が示す差異に基づいて、正常生物が本来持つ機能を明らかにしようとする研究”に使用される生物」のことです。多種多様な突然変異遺伝子を保有する日本鶏は、この使用目的に良くかなっており、基礎生物学発展のための研究材料として有用です。また、日本鶏が持つ突然変異遺伝子がヒトの持つそれと共通する場合には、日本鶏を、ヒトの病気を研究するための「疾患モデル」として使用することもできます。すなわち、日本鶏はヒトの医学研究の材料にもなり得ます。

### 〈食料安全保障〉

上述のような医学生物学的なモデル動物としての使用の他に、日本鶏は、鶏卵・鶏肉生産のための、農学的展開ならびに産業応用を睨んでの研究材料としても極めて有用です。日本鶏が本来観賞用である(卵肉生産用に改良されていない)が故に、卵肉生産を目的とした欧米鶏との比較研究をすることで、鶏卵肉の生産に関与している遺伝子座(遺伝子)を効率的に検出することができます。これらの有用遺伝子座(遺伝子)を検出することができれば、次にその情報(DNA情報)を利用して、斬新なゲノム育種を行うことにより、産卵性・産肉性に優れた日本独自の産業用ニワトリを作出することが可能になります。これはすなわち、日本の鶏卵肉の自給率の向上に直結するため、国益に貢献できます。

(注) 現在の日本には、産卵・産肉性に優れた純国産の産業鶏はほとんど存在せず、鶏卵・鶏肉における現在の真の自給率は7%未満である。

### 〈日本文化継承への貢献〉

前述の通り、日本鶏は日本独自のニワトリです。その姿かたちおよび性質の特異性(海外のニワトリとは大きく異なる)により、15品種と2つのグループ(合計26品種)が国の天然記念物(特別天然記念物を含む)に指定されています。現在の日本鶏品種の原型の多くは、弥生時代から江戸時代にかけて形成されています。すなわち、日本鶏は生きた文化財であり、その存在は日本文化の一つであるといえます。しかしながら、現代日本では、日本鶏の飼育者数ならびに日本鶏そのものの数は減少の一途を辿っています。したがって、本センターが日本鶏品種を保護・増殖・保存することは、日本文化継承の一翼を担うこととなります。

### 3. 日本鶏資源開発プロジェクト研究センターでの研究成果について

研究活動は、遺伝育種学、生理学、繁殖生理学、発生工学、免疫学、行動学等の分野において展開しています。これまでの研究成果の代表的なものに、DNA解析に基づき、ニワトリの生産性（成長、産卵性、肉質など）に関する約700の形質に関しその支配遺伝子座の染色体上の位置を明らかにしたこと、国の特別天然記念物である「土佐のオナガドリ」の尾が伸び悩む原因を明らかにしたことなどがあります。

### 4. 今後の展望

今後はこれまでの成果を生かし、日本鶏品種のさらなる保護増殖に取り組むことはもとより、各研究分野の知見を総合して、産卵性・産肉性に優れた日本独自の産業用ニワトリを実際に作出することを目指します。

#### (※) 広島大学プロジェクト研究センターについて

広島大学プロジェクト研究センターは、本学の特徴ある研究を広く学内外の人々に知ってもらおうとともに、自立的で自由な発想の下で展開される学部・研究科の枠を超えたプロジェクト型の研究活動を推進し、一層の活性化を促すことを目的として設置しています。

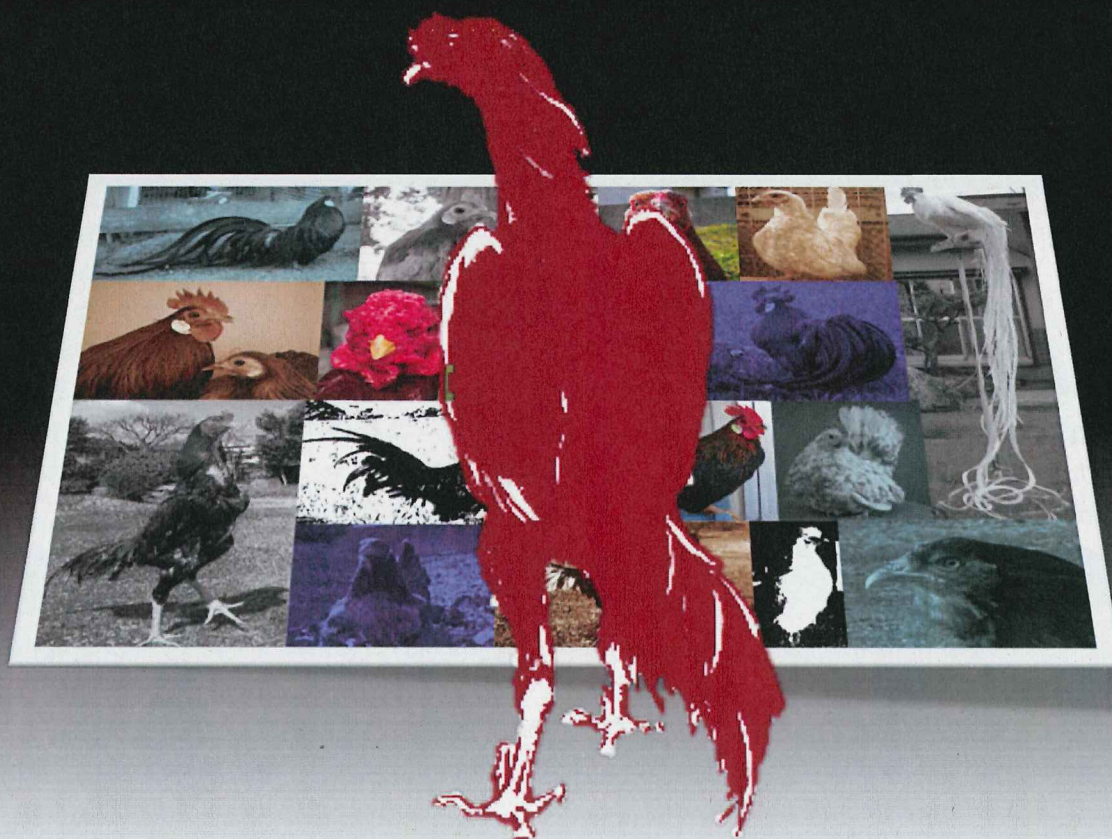
#### 【お問い合わせ先】

大学院生物圏科学研究科  
(日本鶏資源開発プロジェクト研究センター)  
都築 政起  
TEL&FAX: 082-424-7950  
E-mail: tsudzuki@hiroshima-u.ac.jp



# JAB

Japanese Avian Bioresource  
Project Research Center



広島大学  
日本鶏資源開発プロジェクト研究センター

# 人間活動と環境保全と

## センター設立の趣旨

我が国が保有するニワトリ、日本鶏の種類（品種）は多種多様で、その数は全世界のニワトリ品種数のおよそ20%を占めると言われています。この狭い国土に、これ程の品種が集中していることは、他の家畜に類はなく特筆すべき点です。しかし、近年愛好家の高齢化あるいは農村の都会化などによって日本鶏の数・種類はともに激減しており、その保存・保護が急務となっています。日本鶏を保存・保護する意義は、主に次の3点に認められます：①生物多様性維持への貢献、②食料安全保障への貢献、③日本文化継承への貢献。

広島大学日本鶏資源開発プロジェクト研究センター(以下、「JAB」という。)では、現在、日本鶏を主体におよそ50品種(内種、系統まで含めると約130種類；総羽数2,200)のニワトリを保有しております。さらにウズラ類(4種)に付きまして、突然変異系統を中心に28系統(総羽数1,500)を保有しております。JABは、この膨大な家禽資源のみならず、日本各地に現存し、失われつつある日本鶏の保存・保護を図り、生物多様性の維持と日本文化の継承に寄与するとともに、日本鶏がもつ有用遺伝子の同定ならびにそれを利用した優良国産実用鶏の開発を行うことを目的としています。



大学院生物圏科学研究科  
生物資源科学専攻 教授

都築 政起  
(JABセンター長)

## 生物多様性



近年、地球環境保全への関心が急速に高まりを見せ、「生物多様性」というキーワードが多用されるものの、それは単なる環境問題の一指標として捉えられがちです。しかし、「生物多様性」は地球環境や生態系保全のみならず、人類にとっての貴重な生物（遺伝）資源であることを忘れてはなりません。これは次に述べる品種改良のための資源であるにとどまらず、将来の医薬品開発においても重要な資源です。そのためにも日本鶏の多様性は維持されなければなりません。

## 食料安全保障

我が国に流通する鶏卵鶏肉産出の元となるニワトリは、その90%以上を海外からの輸入に頼っています。トリインフルエンザ等の世界的な防疫問題が発生すると、その輸出入はできなくなり養鶏関連産業は壊滅状態に至り、消費者が被害を蒙る可能性があります（実際に数年前にこの危機に直面し、時の農水大臣は、日本独自の国産鶏開発の必要性を明言しました）。さらに今後、地球温暖化など地球規模の劇的な気候変動によって、さまざまな疾病が発生し易くなるとともに、欧米系鶏の生産性が低下することが予想されます。これらの問題に対して、日本鶏が有する未利用の有用遺伝資源を活用して、日本独自の国産鶏を開発することは、真の自給率の向上のみならず、将来に備えた食料安全保障の面からも取り組まなければならない課題です。国産鶏開発（品種改良）のために日本鶏の保存・保護が必要です。

# の調和を目指して



## 日本文化の継承

日本鶏の多様性は、日本人の持つ「美意識 (=文化)」と深く関係しており、他国ではみられない独自の審美眼をもって、その姿、鳴き声等に改良が加えられ現在に至っています。日本人と鶏との関係は単に生物学および農学分野のみならず、儀礼・儀式あるいは伝統芸能・工芸品といった民俗学、民族学、言語学、地域研究、歴史学、社会学など極めて多様な分野にまで関わっており、日本鶏の喪失がさまざまな点において文化の喪失にも繋がるものと容易に予想されます。よって、日本文化継承の観点からも日本鶏の保護・増殖が必要です。



JABは、これらの目的を達成するために、次の活動を実施します。

調査研究

保護増殖

セミナー

顕彰事業

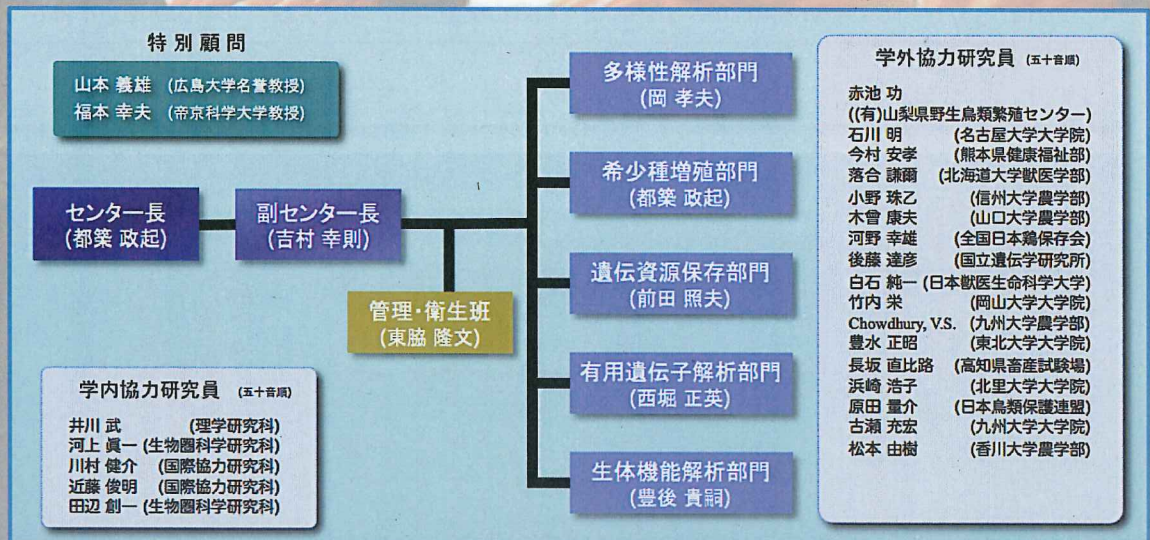
出版・広報

国際協力

## センター概要

本センターは、センター長および副センター長のもと、「多様性解析」、「希少種増殖」、「遺伝資源保存」、「有用遺伝子解析」および「生体機能解析」の5つの部門から構成されています。各部門は、協力して研究を推進するとともに、その活動を通して、①家禽生体機能に関する国際的研究ネットワークの構築、②稀少日本鶏精子バンクの設立、③関連分野における若手研究者・技術者の育成および④関連産業との連携による社会貢献を図っています。

また、国内外農学研究所および連携協力大学との共同研究ならびに当大学他研究科の各専門教員の賛助により活動を遂行しています。



# 調査研究

## 1 有用形質の網羅的解析とその評価法の確立

日本鶏各品種の肉質・卵質や繁殖に関する経済形質のみならず、免疫や生理・行動についてもその有用形質について調査を行っています。また、これらの有用性の評価法については、様々な角度から検討を加え、外国鶏との比較を行います。



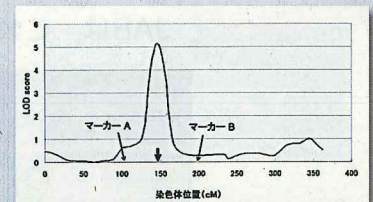
## 2 日本鶏生殖細胞の保存

これまでに開発した精液凍結保存技術を用いて、稀少日本鶏より採取した精子の保存を行います。さらに、受精卵の凍結保存法開発にも挑戦し、日本初の生殖細胞の凍結保存銀行(Avian germplasma cryobank)の設立を目指します。



## 3 有用遺伝子の同定と優良国産実用鶏の開発

QTL解析を用いて、日本鶏の保有する様々な有用遺伝子座を同定し、これをもとにした優良国産実用鶏の開発を目指しています。さらに、原因遺伝子の同定まで試み、分子レベルで生体機構を明らかにする研究を行っています。



## 4 日本鶏調査

日本各地における日本鶏の飼育状況や、鶏に関する各地の文化・風習の過去および現状についても調査を行います。



### <これまでの調査実績>

2010. 5/2 福岡県北九州市, 7/17-19: 高知県南国市, 7/23-25: 高知県南国市, 9/11: 岡山県岡山市, 9/16: 長野県安曇野市, 10/2-3: 高知県南国市, 12/12: 熊本県熊本市
2011. 4/23-24: 鳥根県簸川町, 5/15: 福岡県北九州市, 6/18-19: 鳥根県出雲市/安来市, 11/5: 佐賀県鳥栖市
2012. 3/14-16: 高知県南国市, 3/21-22: 和歌山県田辺市, 4/20-22: 和歌山県田辺市ほか

## 日本鶏って何？

日本鶏のルーツに関する文献はほとんど残っておらず、一般的には次のように考えられています。

① 弥生時代、現在の土佐地鶏などの地鶏の祖先が既に存在した(主に朝鮮半島経由、一部南西諸島経由で流入したと考えられている)。

② 平安時代に、遣唐使船によって小国鶏(シヨウコク)の祖先が中国より渡来した。江戸時代の初期に、朱印船により、大軍鶏(オオシヤモ)、矮鶏(チャボ)、烏骨鶏(ウコッケイ)の祖先が、タイ、ベトナム、中国からそれぞれ伝来した。

③ 江戸時代の鎖国期を通じ、各種(各地)の地鶏、小国鶏、大軍鶏、矮鶏、烏骨鶏がさまざまに交配、純化されて、江戸時代の終わり(一部は明治時代の初期)までに、現存するほぼ全ての観賞用品種が成立した。

④ 明治時代になると多種類の外国鶏が輸入されるようになり、日本の在来鶏とさまざまな交配がなされて、明治・大正期を通して卵肉の生産を目的とした実用品種が育成された。その代表的なものに名古屋(ナゴヤ)がある。



## 保護増殖

日本鶏を保有する研究機関のみならず、愛好家の方々と連携して優良な稀少日本鶏を選びすぐり、その保護と増殖を行います。また、愛好家の方に、学術的見地からの維持増殖技術の提供を行います。さらに、これら品種や凍結保存した精子を用いて、絶滅した日本鶏の復元を目指します。

2011年5月には、1階部分に展示スペースを設けた日本鶏保護増殖鶏舎が完成しました。(広島大学学長裁量経費：浅原学長)



## セミナー

日本鶏の多様性やその価値、さらには、日本鶏の魅力について、研究者のみならず、一般の方々にもご理解頂けるようシンポジウムやセミナーを開催し、関係者に最新情報を提供するとともに、日本鶏の飼育や利用に関する普及・啓発に努めています。



### 第1回シンポジウム「鶏王国日本の今を考える」

- 生ける文化財 -日本在来家畜・家禽の現状と将来-
- 鶏王国 土佐 -土佐ジロー・はちきん地鶏の開発-
- 日本鶏、その多様性が地球を救う

### 第2回シンポジウム「鶏の起源を探る」

- セキショクヤケイとアジアの在来鶏
- 遺伝的多様性から観るニワトリ
- DNA情報から探る日本鶏の起源と遺伝的多様性

### 第3回シンポジウム「羽を科学する」

- 羽の形の科学
- 羽の色の科学

### 第4回シンポジウム「あなたの知らないタマゴの世界」

- 「たまご博物館」って何だ？
- 卵に関わる遺伝子座の話
- ニワトリが健康に卵を産むための仕組みはどうなっているの？

### 第5回シンポジウム「ニワトリの未来を考えよう！」

- 白色レグホンに毎日オナガドリを産ませる秘訣
- ニワトリに金の卵を産ませよう！
- 生死をかけた精子のタイムトラベル

### 第6回シンポジウム「暑さの生理学 ～暑熱環境におけるニワトリの生理～」

- 耐暑性と暑熱馴化
- 暑熱環境におけるアミノ酸およびペプチド代謝
- 暑熱による酸化ストレス

### 第1回セミナー「拒食および過食症鳥類モデルの中樞性摂食調節」

- マーク・クライン博士 (米国ラドフォード大学)

### 第2回セミナー「稀少日本鶏の現状と県畜産行政の対応」

- 藤原 美華 (和歌山県養鶏研究所)
- 岡 孝夫 (広島大院生物圏)
- 長坂 直比路 (高知県畜産試験場)

### 第3回セミナー「遺体科学の挑戦」

- 遠藤 秀紀 (東京大学総合博物館)



## 顕彰事業

希少な日本鶏の保護増殖に尽力された愛鶏家の方を、年におひとり表彰して、その功績を讃えるとともに、その保護活動を支援します。

第一回日本鶏保存功労者表彰 池本 俊夫 氏 (南国市大篠長尾鶏保存会会長)  
「土佐のオナガドリ」の保護増殖に関する功績

第二回日本鶏保存功労者表彰 砂橋 猛 氏 (元 全日本初生雛鑑別協会 広島支部長)



## 出版・広報

日本鶏の価値とその重要性について関係者の理解と協力を得るため、学術論文はもちろんのこと、日本鶏に関する一般向けの読み物の執筆ならびに書籍の出版を行います。

都築 政起 (2008) 現代版「日本鶏の歴史」 日本鶏 48 : 47-58 全国日本鶏保存会  
都築 政起 (2011) 「DNA解析をもとに鶏卵・鶏肉の食料安保を！」 生物工学会誌 89 : 88-89  
都築 政起 (2011) 「天然記念物としてのニワトリ」 広島県文化財ニュース 208 : 7-13 広島県文化財協会  
都築 政起 (2011) 「小国と尾長鶏」 肥後ちゃぼ 43 : 21-25 肥後ちゃぼ保存会

また、センターホームページを活用し、情報の提供を行っています。

<http://home.hiroshima-u.ac.jp/jabprc/>

## 国際協力

アジア地域等を対象として、在来鶏に関する情報の収集・提供、現地調査による意見交換等を行います。

2010年 9月 カザフスタン共和国現地調査 (遺伝子解析部門長および山本特別顧問)

2011年10月 カザフスタン共和国現地調査 (遺伝子解析部門長および山本特別顧問)

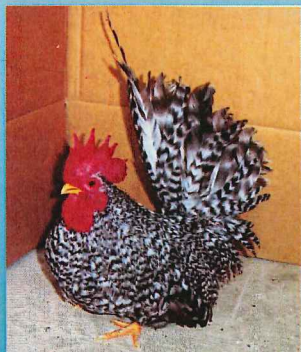
## センター防疫について

当センターでは、関係省庁ならびに本学関連施設が策定した防疫マニュアルを遵守するとともに、家畜保健衛生所によるHPAIモニタリング検査を毎月行っており、鳥インフルエンザ等の防疫対策には万全を期しております。

また、鳥インフルエンザを含む様々な病原菌およびウィルスの不活性化に有効なEtak配合消毒薬(広島大学 大学院医歯薬学総合研究科 二川浩樹教授 開発)の散布を行い、さらなる防疫体制の強化に努めております。

### 内種って何？

人間は、何らかの目的をもって動物を利用し、その繁殖をコントロールして家畜をつくってきました。紀元前六千年頃に起こったといわれるニワトリの家畜化以来、その時々時代の要請、地域の特色、人々の好みなどによってさまざまな品種が生まれることになりました。卵をたくさん産むという特徴を持った白色レグホーンという品種は、その代表例でしょうか。例えば犬だと、チワワとかトイプードルとかが品種で、同一品種の中の色違いを内種(ないしゅ)と呼びます。家畜の種類によってはこの内種は存在しない場合もありますが、ニワトリでは、1つの品種に多くの内種が存在するのが普通です。世界にどれほどのニワトリ品種が存在するのか正確には分からないのですが、二百品種強ではないかと思われます。そのうち、日本では約40品種が作出されており、これは世界のニワトリ品種の約20%が作出されたということになります。実に驚くべき数値だと思いませんか？



## 排泄物処理について

当センターで排出される鶏糞は、堆肥化装置によって処理され、一部は近隣住民の園芸等に利用されております。

また、堆肥化過程で発生する悪臭については、生物圏科学研究科・正岡淑邦教授 研究の殺菌脱臭装置によって硫酸化物を除去しており、環境への負荷低減を図っております。



## センター保有鳥類リスト

### セキショクヤケイ

#### 日本鶏

矮鶏 (白色、黒色、赤笹、翁、碁石、桜碁石、金鈴波、桂、逆毛)			小軍鶏 (赤笹、白笹、猩々、浅黄、白色、黒色、鶴毛、碁石、桜碁石、三色碁石)					
尾長鶏 (白藤、赤笹、白色、猩々、黒色、桂)			烏骨鶏 (白色、白色逆毛、黒色、黒色逆毛)			大軍鶏 (赤笹、浅黄、柏、黒色、横斑、碁石、玄翁など)		
蓑曳鶏 (赤笹、猩々、白笹、黄笹)			小国鶏 (白笹、白色、黒色)		薩摩鶏 (赤笹、白笹)		南京軍鶏 (赤笹、白色)	
鶺鴒矮鶏 (鶺鴒尾) (赤笹、金笹、黄笹、白色)			蓑曳矮鶏 (赤笹、白笹、黒色)		蜀鶏 (黒色、白色)		金八鶏 (黒色、白色)	
声良鶏	比内鶏	東天紅鶏	黒柏鶏	地頭鶏	河内奴鶏	久連子鶏	八木戸鶏	大和軍鶏
土佐地鶏 (赤笹、白色)		岐阜地鶏 (赤笹、柏)		三重地鶏	会津地鶏	佐渡髭地鶏	龍神地鶏	愛媛地鶏
越後南京軍鶏		芝鶏	宮地鶏	名古屋	チャーン	インギー鶏	土佐九斤	

#### 外国鶏

レグホーン (白色、黒色、赤笹)	プリマスロック (白色、横斑)	ブラーマ (レッド、パトリッジ、浅黄、黒色、薄墨)	ロードアイランド・レッド
ブラーマバンタム	フェニックスバンタム	ポーリッシュバンタム	シーブライトバンタム (シルバー、ゴールド)
ダンダラウイー	ファイヨウミ (褐色型)	アロウカナ	ライト・サセックス
アヤム・セマニ	アヤム・アラブ	アヤム・カンブン	ペキンバンタム雑種

#### ウズラ

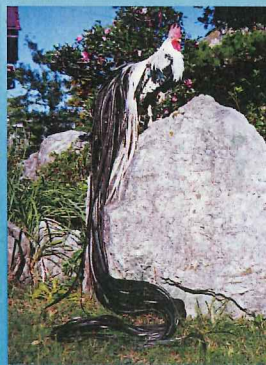
野生型系統	大体重系統 (欧州系野生型、欧州系白色型、ブラジル系野生型、ブラジル系淡色型、ブラジル系赤褐色型、ブラジル系黄褐色型)
突然変異系統 (不完全アルビノ、伴性シナモン、伴性ブラウン、優性黒、ハンジー、劣性黒、イエロー、フォーン、シルバー、先天性多発奇形、小斑白)	

#### ヒメウズラ

野生型系統	突然変異系統 (ライトグレイ、ブラウン、純白、小斑白、優性黒、ブラックヘッド、イエロー)
-------	--

#### コリンウズラ野生型

#### カンムリウズラ野生型



日本鶏における天然記念物を紹介する際には、通常日本鶏の内、十七品種が国の天然記念物に指定されている。という表現が用いられます。しかし、この表現は、厳密に言えば間違いであると思えます。正しくは「日本鶏の中の二つのグループと十五の品種が国の……」です。これらのものの指定名および通称を列挙すると次のようになります。①地鶏グループ、②軍鶏グループ、③小国鶏、④矮鶏、⑤烏骨鶏、⑥声良鶏、⑦比内鶏、⑧蜀鶏、⑨蓑曳鶏、⑩河内奴鶏、⑪黒柏鶏、⑫土佐のオナガドリ、⑬東天紅鶏、⑭蓑曳矮鶏、⑮鶺鴒矮鶏、⑯地頭鶏、⑰薩摩鶏。なお以上のうち、「土佐のオナガドリ」は、国の特別天然記念物です。日本鶏に限らず、家畜の中で特別天然記念物に指定されているのは本品種のみです。

## 天然記念物の鶏

# 日本鶏の紹介

当センターで現在保存増殖されている  
日本鶏の一部をご紹介します

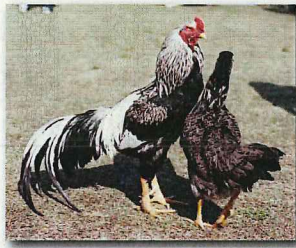
○：国指定天然記念物、●：地方自治体指定天然記念物



特別天然記念物「土佐のオナガドリ」



○ 小国鶏 (ショウコク)



○ 声良鶏 (コエヨシ)



○ 蜀鶏 (トウマル)



○ 比内鶏 (ヒナイドリ)



○ 黒柏鶏 (クロカシワ)



○ 薩摩鶏 (サツマドリ)



○ 蓑曳鶏 (ミノヒキ)



○ 地頭鶏 (ジトッコ)



○ 河内奴鶏 (カワチヤッコ)



○ 東天紅鶏 (トウテンコウ)



○ 烏骨鶏 (ウコッケイ)

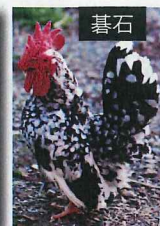


○ 蓑曳矮鶏 (ミノヒキチャボ)



○ 鶉矮鶏 (ウズラチャボ)





○ 矮鶏 (チャボ)

○ 地鶏



土佐地鶏



三重地鶏



岐阜地鶏



会津地鶏



佐渡髭地鶏

○ 軍鶏



大軍鶏 (オオシャモ)



八木戸鶏 (ヤキド)



金八鶏 (キンバ)



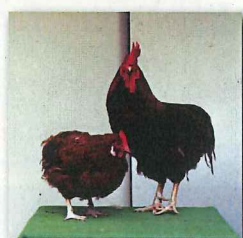
南京軍鶏 (ナンキンシャモ)



小軍鶏 (コシャモ)



大和軍鶏 (ヤマトグンケイ)



● インギー鶏



● 久連子鶏 (クレコドリ)



● 土佐九斤 (トサクキン)

# 研究・教育のためのセンター利用のご案内

「日本鶏資源開発プロジェクト研究センター」では、家禽の研究を行っている研究者、または家禽の研究を希望する研究者を対象として、共同研究事業を実施するとともに、「環境学習」を目的とした教育施設であるよう努めております。

## 研究試料の供給サービス

当センターでは、研究試料（各種家禽生体、組織、血液等）を生命科学研究者に提供することで、生命科学を支援し、科学の進歩に寄与します。研究試料を希望される場合は、下記までお申し込みください。当センター所定の規則に従い、審査の上対応いたします。

## センター施設（日本鶏保護増殖舎）見学の申し込み

当センターでは、日本鶏の素晴らしさを広く知っていただくため施設見学を実施しております。詳しくご覧になりたい方は、是非ご利用ください。なお、施設見学にはご予約が必要となりますので、下記までご連絡ください。

(見学の申し込みは随時受け付けていますが、日程調整の関係がありますので2週間前までにお申し込みをお願いします。)

### ACCESS MAP

## アクセスマップ

### 公共交通機関の案内

JR西条駅→「広島大学」行バス  
→「大学会館前」(所要時間20分)

JR八本松駅→「広島大学」行バス  
→「大学会館前」(所要時間20分)

新幹線東広島駅→「広島大学」行バス  
→「大学会館前」(所要時間20分)

広島空港→「白市駅」行バス  
→ JR白市駅 → 広島方面行  
→ JR西条駅 → 「広島大学」行バス  
→ 「大学会館前」(所要時間50分)



### 連絡先

広島大学大学院生物圏科学研究科  
家畜育種遺伝学研究室

センター長 都築 政起

TEL & FAX: 082-424-7950 E-mail: tsudzuki@hiroshima-u.ac.jp  
<http://home.hiroshima-u.ac.jp/jabprc/>

研究科窓口：広島大学大学院生物圏科学研究科  
運営支援グループ（総務・財務）

TEL: 082-424-7904 FAX: 082-424-2459

E-mail: sei-bucho-sien@office.hiroshima-u.ac.jp

<http://www.hiroshima-u.ac.jp/gsbs/index.html>



広島大学 日本鶏資源開発プロジェクト研究センター

〒739-8528 東広島市鏡山1-4-4